市民句会報

令和六年九月二十五日

オーテピア高知図書館（高知市民図書館）　○印　味元昭次選　順不同

○秋空や二人三脚声援す
茗荷（みょうが）の子彩り添える田舎寿司
山林に響き奏でる法師蟬
郁子（岡）

○リビングに母の絵二枚秋うらら
マンションにつくつくぼうし母の声
秋暑しスーパー二軒はしごする
紀美

夕暮れて沈む景色にひぐらしが
燃えたぎるカンナに負けじ老の生（おいせい）
秋日和不器用に生きありのまま
迪子

○つくつくし一瞬静寂残しけり
○花もよし蕾又よし野の桔梗
芋虫を虫籠で飼う男いて
文子

法師蟬一声高く後静か
新涼や漕ぐ自転車に朝の風
取り込んだ服折り畳む夜の秋
農子

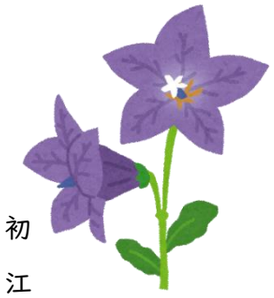
○陣跡に一つの石碑昼の虫
再開発進む神宛秋の蝉
鬼やんま兄弟二人猛ダッシュ
初江

○ガザの命ガザの命とつくつくし
○底紅や少女にはかに大人びて
○秋蝉や施設入所の父の背（せな）
瑞枝

○夕茜声残りゐるつくつくし
○秋空へ届け風船一二三（いちにの）
つやつやと畑に健在秋茄子
郁子（土）

○鬼灯の明るさ程の明日でよい
二番目は姉の去年の秋の服
秋の風空缶ひとつ道の脇
酔花

流れ来し筏の草や夏の果て
輪になつてラジオ体操虹仰ぐ
夕立はダム湖に辿り一夜かな
えり



○法師蟬亡母に謝（あやま）る事ばかり
露草や踏みしだかれて尚青く
赤トンボ風に逆らい川の上
志津子

彼岸花ひっそり咲いて一歩（いっぽ）秋
秋蝉を心で鳴かせ角曲る
独り居の心がまえや一、二、三
富子

○優先席こそっと座り十三夜
○少年に白衣大きく秋遍路
アルバムはタイムカプセル秋の蝉
千代

味元　昭次　作品

秋蟬を聴く椅子一つ注文す
青空に鵙鳴く九月十一日
二度鳴いて秋の鴉となりにけり

★次回市民句会
【開催日時】
令和六年十月二十三日（水）
午後一時十五分～午後四時（予定）
【場所】
オーテピア4階　研修室
どなたでも自由にご参加いただけます